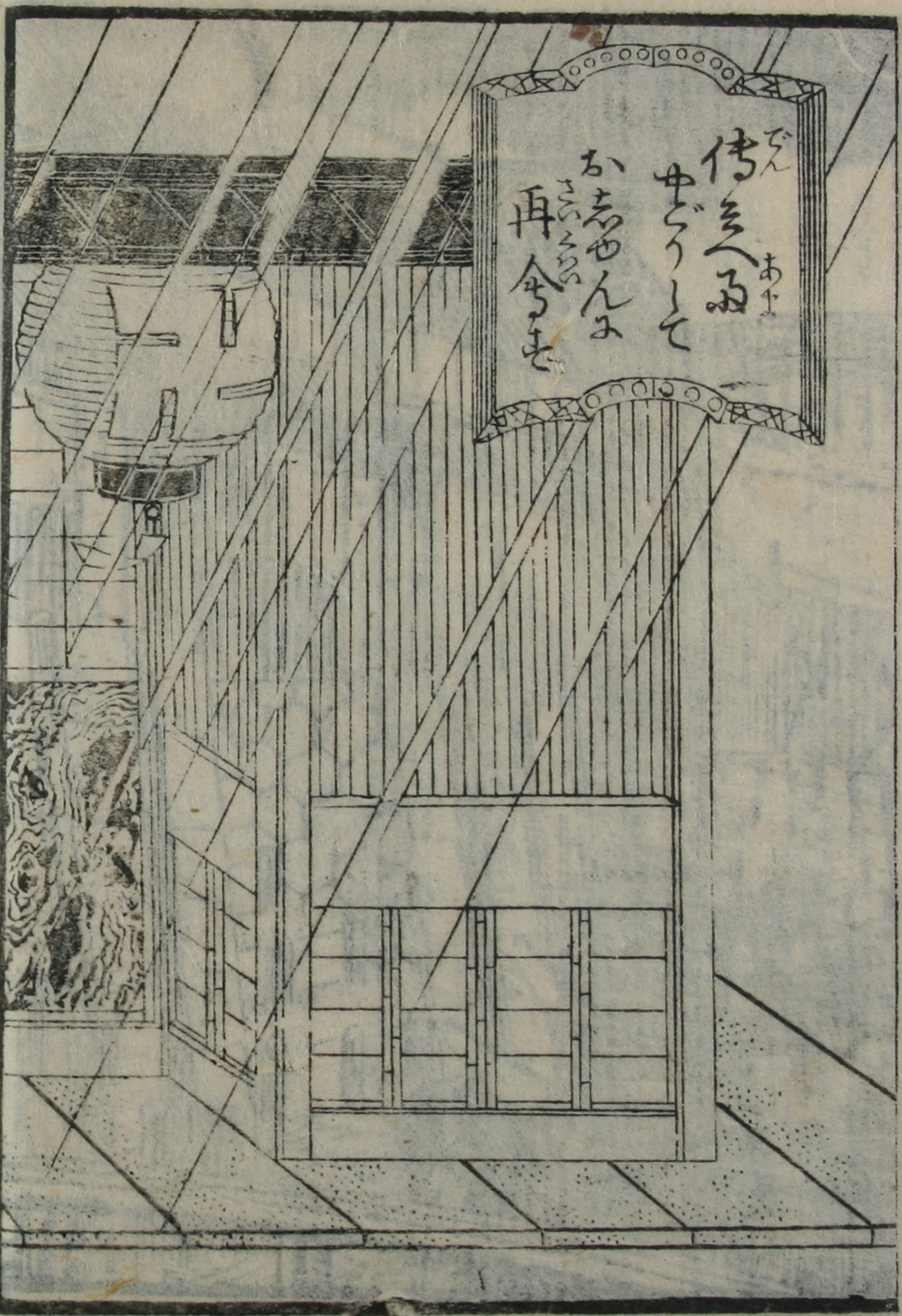

でん
伝えるあよ
やどりそ
おもんみ
さらら
再会を



浮世新歌

第五回

江戸 松亭金水編次

朋友（ともだち）の内（うち）へ行（ゆき）もすれば又（また）朋友（ともだち）の
内（うち）へも来（き）たりするが此（この）人（ひと）の
来（き）たり行（ゆき）たりするのは何（ど）の
為（ため）かと云（いう）に唯（ただ）遊（あそ）びに来（き）たり
遊（あそ）びに行（ゆく）のみで外（ほか）に用（よう）事（じ）は
ない。又（また）此（この）人（ひと）の来（き）たり行（ゆき）たりする
のは何（ど）の位（くらい）の間（あいだ）かと云（いう）に是（これ）も
唯（ただ）漫然（まんぜん）と来（き）たり行（ゆき）たりするの
で少（すこ）しも定（さだ）まりがない。又（また）此（この）
人（ひと）の来（き）たり行（ゆき）たりするのは何（ど）の
位（くらい）の頻（ひん）度（ど）かと云（いう）に是（これ）も唯（ただ）
漫然（まんぜん）と来（き）たり行（ゆき）たりするので
少（すこ）しも定（さだ）まりがない。又（また）此（この）
人（ひと）の来（き）たり行（ゆき）たりするのは何（ど）の
為（ため）かと云（いう）に唯（ただ）遊（あそ）びに来（き）たり
遊（あそ）びに行（ゆく）のみで外（ほか）に用（よう）事（じ）は
ない。又（また）此（この）人（ひと）の来（き）たり行（ゆき）たりする
のは何（ど）の位（くらい）の間（あいだ）かと云（いう）に是（これ）も
唯（ただ）漫然（まんぜん）と来（き）たり行（ゆき）たりするの
で少（すこ）しも定（さだ）まりがない。又（また）此（この）
人（ひと）の来（き）たり行（ゆき）たりするのは何（ど）の
位（くらい）の頻（ひん）度（ど）かと云（いう）に是（これ）も唯（ただ）
漫然（まんぜん）と来（き）たり行（ゆき）たりするので
少（すこ）しも定（さだ）まりがない。又（また）此（この）
人（ひと）の来（き）たり行（ゆき）たりするのは何（ど）の
為（ため）かと云（いう）に唯（ただ）遊（あそ）びに来（き）たり
遊（あそ）びに行（ゆく）のみで外（ほか）に用（よう）事（じ）は
ない。又（また）此（この）人（ひと）の来（き）たり行（ゆき）たりする
のは何（ど）の位（くらい）の間（あいだ）かと云（いう）に是（これ）も
唯（ただ）漫然（まんぜん）と来（き）たり行（ゆき）たりするの
で少（すこ）しも定（さだ）まりがない。又（また）此（この）
人（ひと）の来（き）たり行（ゆき）たりするのは何（ど）の
位（くらい）の頻（ひん）度（ど）かと云（いう）に是（これ）も唯（ただ）
漫然（まんぜん）と来（き）たり行（ゆき）たりするので
少（すこ）しも定（さだ）まりがない。又（また）此（この）
人（ひと）の来（き）たり行（ゆき）たりするのは何（ど）の
為（ため）かと云（いう）に唯（ただ）遊（あそ）びに来（き）たり
遊（あそ）びに行（ゆく）のみで外（ほか）に用（よう）事（じ）は
ない。又（また）此（この）人（ひと）の来（き）たり行（ゆき）たりする
のは何（ど）の位（くらい）の間（あいだ）かと云（いう）に是（これ）も
唯（ただ）漫然（まんぜん）と来（き）たり行（ゆき）たりするの
で少（すこ）しも定（さだ）まりがない。又（また）此（この）
人（ひと）の来（き）たり行（ゆき）たりするのは何（ど）の
位（くらい）の頻（ひん）度（ど）かと云（いう）に是（これ）も唯（ただ）
漫然（まんぜん）と来（き）たり行（ゆき）たりするので
少（すこ）しも定（さだ）まりがない。又（また）此（この）

今ハイ老タリトモ。ソノ魂魄ハ尚ホ存シテ。
モノヲ。
又人ニ憑リテ。コレヲ祟ルコトアリ。コレヲ
魂胆ト云フ。ソノ人ノ死スルニ臨ミテ。
ヲルトキ。
ソノ人ノ魂ハ。必ズ其ノ家ニ留マリテ。
ソノ家ヲ去ラズ。ソノ人ノ死シ

えなのうどん下小屋てよくおやす。淀のとぎりどもいふそうやうあいだ。そりやうあいだ。そりやうあいだ。そり

へ。十二や十三の女児（ひとめ）もあらう。私（わたし）も其（その）位（くらい）の年頃（としごろ）だ。
ーい。
狂気（きちがひ）の人（ひと）ぢゃ。生（いき）て居（を）ても為（す）ん方（かた）もない。
ーが。私（わたし）が兄（あに）ぢゃ。
ーい

中の者は皆ぞっと悔き。ある者は涙小便をたれ悔き。ある者は一ぺん（まと）陳ふめくぐってよ。アイツ（もう）おりうそ（ん）陳ふめくぐってよ。アイツ一ぺんくらうそ（ん）陳ふめくぐってよ。アイツ一ぺんくらうそ（ん）陳ふめくぐってよ。アイツ一ぺんくらうそ（ん）陳ふ言ってみてくんろ（ん）陳ふ言ってみてくんろ（ん）陳ふ言ってみてくんろ

女の子とそれぞれ仮の
さえのかいを可愛そうに思ひ、あれ
居るうちに。私がもの
見つけ出して。そ
もらうと言ひ。
遂に家を
そうして
私
面と面

まで。ぞ。ぞ。ぞ

ゑもの不ぶ
ゑそ
ゆ私ゑ
ゑ格別
ゑ仙女香
ゑ
ゑ
ゑ

そのまゝ。鮨へ飛でのそ
いて。ますを
鮨へ飛でのそ
いて。
ぐらうつ。
ぐらうつ。
ぐらうつ

ど
大そうまごつこで麻の
ちらちら
通ふ
くのひとうそを花こうそうそうそ
のひうけうくこの村
おそもこ彩下ふ
ん
心中
まこおま
未練のありそうなどこ一言も
ゆもわりやうそ

今日(きょう)の天気(てんき)
好(よ)き日和(ひより)
のつゞき
見(み)
見(み)えそう
見(み)えそう
見(み)えそう

ぐっ
ゐも
ゐ
ゐ
ゐ

まうすうへこそわうそくしもゝ
実ならなふおもちまうを。湯
殿にて御ゆあみの時御衣をきるといふ
ゆもじ
ゆのつぼ
ゆかたびら
ゆかた
ゆかけ
ゆかけ
ゆかけ




仇討をめぐる悪夫を討とて

書そ物れ小ま
面度をかく
そふ
きの
命を
仆
ごの
ぐ
ぐ
ぐ

まんぢゅうをお土産もそうさこさえる
あのうちの二階の四畳半の窓の下へ
しゃがんでいるのが見えるの。兩の
ふくらんだ夜の着物を着て
ぢっと二階の四畳半の窓の下へ
うずくまって寢ているのよ。
そうしてお父さんが歸ってくるのを
待ってるのよ。
今夜は二人とも好きなお酒を
飲んでいらっしゃるの。
さうしてお父さんが歸ってくるのを
待ってるのよ。
今夜は二人とも好きなお酒を
飲んでいらっしゃるの。後で
さうしてお父さんが歸ってくるのを
待ってるのよ。
今夜は二人とも好きなお酒を
飲んでいらっしゃるの。後で

書をとり解くに、なほ多くの一ツ横折ありて、なかなか解きがたし。悩みわびて、再説せよとのたまふ。

その真かを見届ける為に彼是もめ
ん倒がらずに出かけて行くと云ふ一
念の折て居る人が今日の世の中に
何人あるだらう。

ゆきあたりばったりに指てある招
牌の文句を見て居ると随分面白い
ものが有る。

先頃仕舞屋雲竜
先頃仕舞屋雲竜

寿司屋に五十銭の入用て払ひ
ずに金を借りようとするその後
金の先

とちの此方へ
えのもと二人
家とこ
ゑぶとの
きのいうて
ばとこ
後のほ
ゑ
小かく

恋の花 添二編中終